

令和元年度第2回
札幌市男女共同参画センター運営協議会

日 時：2020年3月17日（火）午後1時開会
場 所：札幌エルプラザ公共施設 2階 会議室1・2

(1) 平成31年度エルプラザ公共施設管理業務の報告

●利用状況の市民活動サポートセンターの12月は、2件で8,600人という多数の参加があるが、具体的な行事は何だったのか。

→（事務局）「マチナカ×NPO」という事業で、チ・カ・ホの一番大きい北3条広場で、NPO団体の出展や団体の活動発表をするイベントを行い、そちらの来場者の数が8,600人という大きい数字になっている。

●アンケートの年齢の分布について、60代、70代、80代が半分を占めているのですが、
→（事務局）年々、年齢層は上がってきているというのが実際のところですが。利用人数が右肩下がりになっていることと社会動向としては、日中に働きに出ている方が多いということもあって、働く年齢層であるところが少ないというのもあらわれているので、シニア層の方々も余暇とか新しい活動の使い方として、数がふえていたり、多様になってきているのではないかと考えている。

(2) 札幌市男女共同参画センターにおける事業について

●相談業務の7番の男性のためのワーク・ライフ相談は、何名くらい参加されていたか。
→（事務局）7名の参加があった。参加者数は少なかったが、フェイスブックでイベントページをつくったところ、今までの事業よりも3倍ほどの閲覧数があり、多くの方に興味を持っていただいて、必要な意義のあるものだと感じていただけたのかなと思っている。

●男性特有の悩み事というのは、どういうことがあったのか気になります。
→（事務局）父親の役割と母親の役割でどのように違いがあるのだろうかということや、それぞれ参加された皆さんの生き立ちなど、今振り返ると、男性であるということを期待されていたところがあるとか、男性だからという部分でちょっとやりづらい部分があったというお話が出ていた。

(3) 意見交換「非常時のセンターの役割について」

●緊急事態だからこそ、中間支援団体が担う役割があると思っており、そこはスピード感と信頼度が必要である。公的なサポートがあると、広めていく際にも受講者の安心・安全を担保できるのかなと非常に強く思った。

●例えば、今回、インターネットを使った会議室の申し込みのところもキーワードになると思っている。ユース層の10代、20代のコミットが少ないようなので、そこに何か策を講じて、若者たちがこの施設を使うきっかけをつくると、職員さんとの間でコミュニケーションが生まれて、もやもや解消のきっかけをもらえるのではないかと感じた。

●一番大事だと思っているのは、災害時や緊急時というのは、日常の中で脆弱なところによりひずみが来やすいという視点を持つことである。そういうときは子どもの虐待やDVも起きやすいというふうに思ったほうがいいのだろうと思っている。だからといって、センターが直接何かをしたほうがいいというアイデアではないが、基本的な心構えとして、日常のゆがみがより出るという考えでいていただきたい。

●公共4施設を維持管理、運営しているという意味では、非常時ということでは、自然災害への対策と、今回のようなウイルス対策というのは、同じ日常時なのですが、分けて備えるべきかと思う。自然災害の地震とか台風は、これからも毎年のように起きてくると思うので、施設というハードをどう使っていくか、また、人が集う場所、人が集まるという長所があるので、そういう人たちにどう情報を発信していくか。別に施設を提供できなくても、だまっけていても人が集まりますので、あそこへ行くと相談を受けられるとか、避難できるとか、そういう役割を負えると思う。今回のコロナウイルスに関しては、長期化する可能性がありますので、沈静化するまでにどういう対応ができるか、また、沈静化した後も余波がしばらく続くと思いますので、その辺のメンタル的なケアも含めて、人のサポートも非常時の対応の一つかと思う。

●私たち子育てをしている人は家にずっといっぱなしというという状態。家にいるだけでいつもと環境が違うので、それでストレスを抱えてしまったりということは、身をもって感じているそんな中で、私はすごく救われたのは、オンラインで誰かとつながれるということ。今、緊急事態宣言が出て以降、毎日、Zoomを使って誰かとお話をさせてもらっている。オンラインということには、賛成で、期待を持っている。